

追悼の辞

2017年9月3日、専修大学文学部環境地理学科の上原秀明教授が逝去されました。享年67歳でした。2014年度から2年にわたり学科長をお務めになった後しばらくしてご病状が重くなり、校務を休んで治療に専念しておられたところでした。

ここに哀悼の思いをこめてご研究やお人柄の一端を紹介いたします。

上原先生は群馬県立高崎高等学校を卒業され、立命館大学文学部地理学科で地理学を学んだ後、大阪市立大学大学院文学研究科に進み、歴史地理学の研究を深められました。その後、熊本学園大学で教鞭をとられ、2000年に本学文学部教授として着任されて以来、17年にわたって研究・教育に尽力してこられました。

先生の専門分野は、近世の村落の空間構造、及び古地図であり、多くの研究業績を残されました。

昨年度、文学部は創立50周年に当たり、さまざまな学術的・文化的催しを実施しました。折しも学科長であった上原先生が積極的に推し進められた環境地理学科の企画「伊能忠敬の原寸大復元大図フロア展示」(2016年8月6日・7日)もその一つです。このフロア展示は、千葉県香取市の伊能忠敬記念館所蔵の原寸大復元大図を借りて行われました。これは、伊能忠敬が全国を歩いて測量し、作りあげた縮尺3万6千分の1の巨大な地図を復元したもので、体育館の床に敷きつめられたその地図の上を歩くことができます。来場者は2日間で1000名

を超える大盛況となりました。古地図の専門家であった先生は、大学内外の研究者たちによる講演会の司会も務め、50周年を記念する行事に大きく貢献されました。

学生の指導は大変熱心で、卒業論文の指導にあたっては一人ひとりに時間を割いて一対一でおこなっておられたと仄聞しております。今年度より本学で助教として採用された阿部美香さんは、学部（当時は人文学科環境地理学専攻）で上原先生の指導学生でした。このことについて、直接に先生からお気持ちを伺う機会はありませんでしたが、かつての指導学生が研究の道を進み、助教として帰ってきたことを心からうれしく思っておられたのではないのでしょうか。

体調によってはつらいときもあったはずですが、先生はつねに穏やかで、平静を保っておられました。肝心なところで貴重なご意見をいただき、その深慮に敬服したこともあります。最後まで、学科の同僚や学生たちのことを気遣ってくださいました。先生の温顔は、いつまでもわたしたちの心に残り、わたしたちを励ましてくれることと思います。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

2018年3月

専修大学文学部長 廣 瀬 玲 子